

1. 市の概要

人口・学校数

- [人 口] 116,362人(平成30年11月1日現在)
- [学校数] 小学校 20校, 中学校 9校, 義務教育学校 1校
- [小中一貫教育を実施している中学校区数] 10校



概要

那須塩原市は、栃木県の北部に位置し、多くの温泉と緑豊かな自然に恵まれたまちです。生乳の生産額では本州第1位（全国第4位）を誇っています。市内には全部で30校の小・中学校等がありますが、その1つである塩原小中学校（義務教育学校）は、栃木県初の施設一体型小中一貫校として平成26年4月に開校しました。市教育委員会では、ICT活用や英語教育を軸にして小中一貫教育を全校で推進しています。

2. 小中一貫教育のねらい

本市小中一貫教育のねらいは、人格の基盤である「確かな学力・体力」、「社会力」、「豊かな心（感性）」の育成を目指す「人づくり教育」の推進を基本として、地域の特色を生かした教育活動を展開し、児童生徒の「生きる力」を育成することです。

具体的には、義務教育9年間に於いて、小・中学校の連続性を図る教育課程のもとで、児童生徒の発達の段階に応じた学習指導と生活指導を行うことにより、児童生徒一人一人の人格の基盤づくりを推進しています。

3. 小中一貫教育導入の背景・経緯

「人づくり教育」の実現には、全教職員が児童生徒の中学校卒業時の姿をイメージし、自分がどの発達の段階を受けもっているのかを常に意識して指導に当たる必要があります。また、本市の大きな教育課題は、不登校児童・生徒の出現率が高いことでした。特に中学校第1学年で不登校になる生徒が多く、その後なかなか復帰できないという状況を踏まえ、小中一貫教育の導入により、9年間を見通した教育の推進と同時に中1ギャップの解消を図り、不登校児童生徒を減少させたいと考えました。

平成23年1月に策定した「那須塩原市小中一貫教育基本方針」に基づいて推進計画を定め、平成24年度から3年間、5つの中学校区で小中一貫教育に関する研究を行いました。また、これらの成果を踏まえ、平成27年度には残りの5つの中学校区で試行しました。5年間の研究・試行の後、「那須塩原市小中一貫教育実施計画」を策定し、平成28年度から市内全小・中学校等一斉に小中一貫教育を開始しました。

4. 具体的な取組内容

- (1) 本市では全中学校区共通として「必ず実践する事項」と、「学区の実情に応じて実践する事項」を中学校区ごとに設定しています。その上で、「目指す児童生徒像の育成」「不登校児童生徒の減少」について、中学校区ごとに数値による成果指標を設定し、成果と課題を確認しながら小中一貫教育を推進しています。

【必ず実践する事項】

- ・中学校区における教育目標、あるいは目指す児童生徒像の設定
- ・「小中共通の指導事項」、「発達の段階に応じた指導事項」を明確にした指導計画の作成
- ・小学校教員による一部教科担任制、あるいは小・中学校教員の相互乗り入れによる一部教科担任制の導入
- ・特定の教科等に絞っての小・中学校の連続性を図るカリキュラムの作成・実践事項の明確化



授業改革に向けた合同研修会

【学校の実態に応じて実践する事項】～ 抜粋 ～

- ・小・中学校等教員合同による研究授業・授業研究会の実施
- ・小・中学校等教員相互の授業交流
- ・児童生徒が異年齢や多人数集団の交流活動を体験する機会の設定
- ・小学校第6学年児童が中学校生活を体験する場の設定
- ・保護者や地域とともに活動する体験活動
- ・地域の教育資源の共有化と発達の段階に合わせた活用 他



師範授業

- (2) 中学校区ごとに研修会を開催し、小・中学校の教職員が一緒になって小中一貫教育推進について指導力向上を図っています。
- (3) 小中一貫教育に対する理解を深めるため、那須塩原市教育委員会として、また中学校区ごとに「小中一貫教育グランドデザイン」を作成し、保護者や地域住民に配布しています。
- (4) 小中一貫教育の進捗状況を確認するため、年度末に児童生徒（小学校第5学年～中学校第3学年）やその保護者、教職員に対してアンケート調査を実施しています。

《東那須野中学校区小中一貫教育グランドデザイン》

那須塩原市立大原小学校・設立小学校・東那須野中学校

大原小学校、設立小学校、東那須野中学校の3校は、那須塩原市の小中一貫教育の方針を受けて、義務教育9年間を貫通した小中学校の連続性のある教育課程を実施し、児童生徒一人一人の人格の基礎づくりを担っています。



東那須野中学校区のグランドデザイン

5. これまでの成果と課題、今後の取組

中学校区単位で外部講師を招き、小中一貫教育の推進に係る研修会を実施しました。これにより小・中学校等の教職員が定期的に集まり、膝を交えて小中一貫教育による指導方法を学んだり意思疎通を図ったりする機会となりました。

また、中学校区ごとに小中一貫教育グランドデザインを作成する過程で、小・中学校等教職員の意識統一を図ると同時に、その配布によって、保護者や地域住民に対して小中一貫教育の内容を周知することができました。

さらに、平成28年度から成果を検証するための指標を中学校区ごとに設定した上で、小中一貫教育に取り組んでいます。具体的には、「相手の立場を尊重し、互いに認め合い協力することができる 85%」、「できるだけ自分ひとりの力で物事を解決しようとしている 90%」、「不登校出現率 1.93%以下」等、各期や各学年において中学校区としての数値目標を明確に示したことで、目指す児童生徒の育成や不登校児童生徒の減少について、全職員が高い意識をもって指導に当たることができました。結果の分析とそれを生かした次年度計画の策定・修正等、PDCAサイクルを意識した指導を定着させることが今後の課題です。

〔那須塩原市〕西那須野中学校区【併設型小学校・中学校】

那須塩原市立東 小 学 校
 那須塩原市立南 小 学 校
 那須塩原市立大 山 小 学 校
 那須塩原市立西那須野中学校

1. 中学校区概要

□教育目標 主体的に考え、行動できる子

□所在地 東小学校 那須塩原市太夫塚 1－193
 南小学校 那須塩原市二区町 399
 大山小学校 那須塩原市下永田 8－7
 西那須野中学校 那須塩原市下永田 4－3



東小学校



南小学校



大山小学校



西那須野中学校

□児童生徒数

	小学校（東小と南小と大山小の合計）								中学校					小中 合計
学 年	1	2	3	4	5	6	特	計	1	2	3	特	計	
児童生徒数	252	263	239	256	235	223	47	1515	219	239	261	18	737	2252
学級数	9	9	8	9	7	7	9	58	7	7	8	4	26	84

2. これまでのあゆみ

- ・平成27年度 年4回のプロジェクト委員会を開催。各校の進捗状況の確認や課題等について話し合いの充実を図りました。
- ・平成28年度 目指す子ども像「主体的に考え、行動できる子」を全職員に周知し、小中一貫教育への取組の充実を図りました。
- ・平成29年度 研究授業における交流や小中合同の研修会（中学校区の避難所設置訓練）、小中一貫教育に関する講演会を実施し、職員の意識向上を図りました。

3. 小中一貫教育の取組概要

ねらい

□中学校区の目指す子ども像

- ・自ら進んで学習できる子ども（学習プロジェクト）
- ・自他の存在を尊重し、互いに協力できる子ども（生活プロジェクト）
- ・心身ともに健康な子ども（健康プロジェクト）

形態・施設

□施設分離型

教職員体制

□校 長 各校に配置

□教職員 小・中の兼務なし

□小中一貫教育担当者 各小・中学校教務主任

教育課程特例・区切り

□教育課程特例 小学校英語活動・外国語活動

□区切り 4－3－2

教科担任制・教員の相互乗り入れ

□教科担任制（※各校の実態に応じて実施）

第2学年…書写、音楽 第3学年…図工、音楽、書写 第4学年…理科、書写、音楽、体育
 第5学年…算数、理科、社会、音楽、図工、家庭 第6学年…算数、理科、音楽、家庭、体育

□教員の相互乗り入れ

- ・中学校体育科教員が、小学校体育の出前授業を実施
- ・中学校教員が、小学校のスキー教室に指導者として参加

児童生徒の異学年交流

- ・新入生説明会 中学校第1学年生徒が、小学校第6学年児童に中学校生活について紹介
- ・体育祭 小学校第6学年児童の希望者が、中学校の体育祭に参加



かっこいい先輩プロジェクト

4. 取組の工夫

(1) 小中一貫教育研究授業・授業研究会の実施

平成29年度は、各校持ち回りで年間3回の研究授業を行い、各校の教員が分担して参加しました。しかし、小中一貫教育に対する教員の意識には差があったため、全員が足並みをそろえて小中一貫教育について理解を深め、取組の一層の充実を図ることを目的として、西那須野中学校を会場として、平成30年7月5日（木）に校区内の全教員が参加して研究授業及び授業研究会を行いました。

研究授業では、国語、社会、数学、理科、英語、美術、保健体育、自立活動の7教科1領域が開設され、参加者は自分の希望する教科等を選んで授業を参観しました。その後、教科・領域ごとの授業研究会で班別協議等が行われました。授業研究会には、宇都宮大学教職大学院の先生方に指導助言者として参加していただき、さらに研修を深めました。特筆すべきことは、研究授業実施前に各教科・領域において、各小・中学校の教員が合同で指導案検討会を実施したことです。小・中学校の教員と一緒に授業づくりを行ったことで、小学校の学びがどのように中学校につながっているか、小学校では何をどのように学んでくるのかなどについて理解を深めるとともに、それぞれの役割の大切さを実感することができました。



研究授業の様子



授業研究会の様子

(2) ビジョン委員会の開催

小中一貫教育を推進するために、各校の教員が集まり、年4回のビジョン委員会を開催しています。ビジョン委員会は、校長部会、教頭部会、教務主任部会、学習プロジェクト、生活プロジェクト、健康プロジェクト、体育主任会で組織されており、それぞれが特色ある取組を行っています。年度末には、共通のアンケート調査を行うことで取組の成果及び課題を把握し、PDCAサイクルを回すことで次年度の改善につなげています。



ビジョン委員会の様子

5. これまでの成果と課題、今後の取組

小中一貫教育研究授業・授業研究会は、教員の相互理解を深め、小中一貫教育に対する意識を高める効果がありました。次年度以降も各校持ち回りでこの取組を継続する予定です。

平成29年度末のアンケート結果では、学習に関する指標の「他の考えを尊重し、自分の考えを積極的に伝えることができる」に対して「はい」と答えた児童生徒の割合が、Ⅰ期は95%、Ⅱ期は85%、Ⅲ期は82%となり、年度当初と比べて意識の向上が見られました。不登校児童生徒の出現率については、中学校において引き続き課題がありますが、様々な取組を通して小・中学校間で情報が共有されるようになったため、小・中学校が連携して子どもたちを育ていこうという意識の醸成につながったことが、最大の成果と考えます。今後は、大規模校の強みを生かした取組についても研究を深め、小中一貫教育の充実に努めたいと思います。

1. 中学校区概要

□教育目標 ふるさとに誇りをもち、人間性豊かにたくましく生き抜く児童生徒の育成

□所在地 豊浦小学校 那須塩原市豊浦17
鍋掛小学校 那須塩原市鍋掛1019
日新中学校 那須塩原市鍋掛1087



豊浦小学校



鍋掛小学校



日新中学校

□児童生徒数

	小学校（豊浦小と鍋掛小の合計）								中学校					小中 合計
学 年	1	2	3	4	5	6	特	計	1	2	3	特	計	
児童生徒数	80	80	83	96	94	98	29	560	85	97	107	16	305	865
学級数	3	3	3	3	3	4	5	24	3	3	4	3	13	37

2. これまでのあゆみ

- ・平成26年度 小中一貫教育組織編成及びテーマ設定
「将来の夢の実現に向けて、粘り強く努力する児童生徒の育成」
- ・平成27年度 学校と地域で話し合う場「日新サミット」開催
- ・平成29年度 小中一貫教育テーマ改正
「ふるさとに誇りをもち、人間性豊かにたくましく生き抜く児童生徒の育成」

3. 小中一貫教育の取組概要

ねらい

□中学校区の目指す子ども像

- ・主体的に学び豊かに表現する子
- ・心身ともにたくましく夢に向かって挑戦する子
- ・自他を大切にし、思いやりのある子

形態・施設

□施設分離型

教職員体制

□校長 各校に配置

□教職員 小・中の兼務なし

□小中一貫教育コーディネーター 各小・中学校に1名配置

教育課程特例・区切り・区切りを意識させる行事

□教育課程特例 小学校英語活動・外国語活動

□区切り 4-3-2

□区切りを意識させる行事

- ・2分の1成人式（小学校第4学年） 立志式（中学校第2学年）

教科担任制・教員の相互乗り入れ

□教科担任制 第3学年…理科、体育、音楽 第4学年…社会 第5学年…家庭

□教員の相互乗り入れ

- ・中学校体育科教員が、小学校体育の出前授業を実施

児童生徒の異学年交流

- ・地域全体の行事「Walk Walk強歩in日新」
- ・学校と地域が共に話し合う「日新サミット」の開催
- ・あいさつ運動



Walk Walk 強歩 in 日新

4. 取組の工夫

(1) 学校と地域が共に話し合う「日新サミット」の実施



児童生徒が主体的に問題解決を図ったり提案したりする態度を育成するため、自分たちに関わる様々な問題について、地域の方々や保護者、教師と共に話し合う「日新サミット」を実施しています。

平成27～28年度は、「インターネットトラブルを防ぐためにわたしたちができること」というテーマに、小学校の代表児童や中学校の生徒会役員・学級委員長、学校評議員、小・中学校の教師等約60名が話し合いを行いました。

サミット後、生徒会が中心となって、ゲーム機の使い方やSNSの利用法についてサミットで話し合った内容を保護者会で報告しました。また、それを受けて、中央委員会でルールの見直しや「標語・ピクトグラムの公募」、「パンフレットの配布」等の具体的な活動内容を決定しました。平成29～30年度は、「ふるさとのためにわたしたちができること」というテーマで同様に話し合いを行いました。その結果、平成29年度は、地域のPR動画をつくろうということになり、実際に地域の方々にインタビューをして動画を作成しました。平成30年度は、地域との連携をさらに進めるため、地域で行われている祭りに出店するなどして交流を深めました。

(2) 6本の柱をメインにした小中一貫教育の推進

小中一貫教育の柱として、①学力の向上、②体力の向上、③コミュニケーション力の向上、④基本的な生活習慣の育成、⑤ふるさと教育の推進、⑥日新プライドの育成を掲げ、学習指導・児童生徒指導・健康指導・特別支援教育部会で9年間をつなぐ取組を様々な実践しています。また、年に2回全体研修会を設け、取組の確認や次年度の検討を行うなどPDCAサイクルを意識することにより、より精度の高い取組となるよう努力しています。



日新中学校区のランドデザイン

5. これまでの成果と課題、今後の取組

「日新サミット」を通して、インターネットトラブルを自分たちの問題として捉えたり、ふるさとのためにできることを真剣に考えたりする態度が育成できています。以前は、毎年4～5件発生していたインターネットトラブルが、現在はほぼゼロに近い状態になっています。

また、年度末のアンケート調査では、成果指標となっている質問項目に対して「できる」と答えた児童生徒の割合はそれぞれ、「学習習慣を身に付け、自分の考えを発表することができるか」では88%（Ⅰ期）、「課題解決のために情報を収集したり話し合ったりして、自分の考えをまとめることができるか」では83%（Ⅱ期）、「自分の考えや相手の考えをグループで伝え合い発表することができるか」では75%（Ⅲ期）となり、肯定的な回答をした児童生徒の割合が年度当初よりも増加したことが成果の1つです。

今後は、さらにPDCAサイクルを意識し、9年間を見通して系統的に子どもたちを育成するための取組の改善を図りたいと思います。

1. 学校の概要

- 校訓 共に生きる
 □教育目標 自分を磨き 人に優しい児童生徒の育成
 ～かしこく やさしく たくましく～



□児童生徒数

	前期課程								後期課程					前後期 合計
学 年	1	2	3	4	5	6	特	計	7	8	9	特	計	
児童生徒数	6	5	4	10	14	13	2	54	7	12	4	2	25	79
学級数	1	1	1		1	1	1	6	1	1	1	1	4	10

2. これまでのあゆみ

- ・平成24年度 市教育委員会より小中一貫教育研究指定を受ける。(2年間)
- ・平成26年度 栃木県内初の施設一体型小中一貫校として開校する。(通称：塩原小中学校)
- ・平成29年度 義務教育学校として開校し、校名を「塩原小中学校」とする。

3. 小中一貫教育の取組概要

ねらい

- 目指す子ども像 I期 学びあう児童 II期 磨きあう児童生徒 III期 高めあう生徒

形態・施設

- 施設一体型

教職員体制

- 校長 1名
 □教職員 教頭2名(前期・後期課程) 教務主任2名(前期・後期課程)

教育課程特例・区切り・区切りを意識させる行事

- 教育課程特例 特例をとらずに柔軟に教育課程を組んでいる。(英語・外国語活動、作文の日)
 □区切り 4-3-2 (I期ブロック・II期ブロック・III期ブロック)

□区切りを意識させる行事

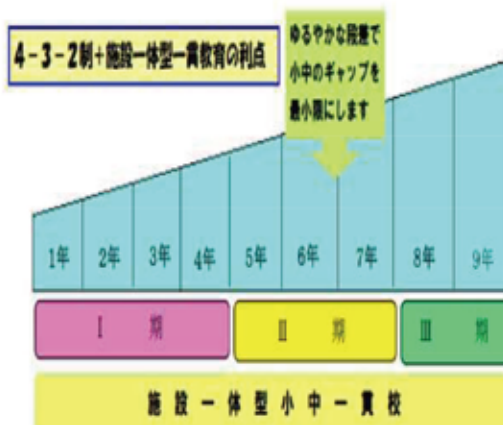
- ・第6学年の修学旅行を廃止して、第5・6・7学年の合同合宿を実施
- ・前期課程の卒業式をせずに、前期課程修了式を実施
- ・後期課程の入学式をせずに、第7学年進級式を実施

教科担任制・教員の相互乗り入れ

- 教科担任制 音楽、体育、技術・家庭
 □教員の相互乗り入れ
- ・前期課程教員が第1～9学年の音楽を担当
 - ・前期課程教員が後期課程の体育を担当
 - ・後期課程教員が前期課程の国語・算数でT2を担当
 - ・前期課程教員が後期課程部活動顧問を担当(剣道部)

児童生徒の異学年交流

- ・第1～9学年の縦割りで行う体育祭
- ・第1～9学年で行う「箒川リフレッシュ大作戦」と文化祭
- ・I期・II期・III期ブロックごとに行うブロック集会・遠足・自然体験活動・スキー教室
- ・第5～9学年の児童生徒による児童生徒会活動・委員会活動
- ・後期課程生徒が前期課程児童の教室に行って給食を食べる「ふれあい給食」
- ・第3～9学年が合同で行う部活動(剣道部)
- ・第6・7学年が浦和駅周辺で自作パンフレットを配布する「塩原PR in 浦和」



4. 取組の工夫

(1) 地域に根ざした生活科・総合的な学習の時間の実践

地域の教育的資源を生かした横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や態度を育てるとともに、学年を越えて協働的な学びを行い、多様で、柔軟な考え方や論理的思考・コミュニケーション能力を高めます。また、感動あふれる自然体験活動や社会体験活動を通して、豊かな心を育み、社会性を伸ばさせます。9年間の学びの成果として「塩原ジュニア観光マイスター」を目指します。

(2) 小中一貫英語教育カリキュラムに基づいた英語教育の実践

第1学年から第9学年まで、小中9年間一貫した本市独自の英語教育カリキュラムを実践しています。全クラスで外国語指導助手（ALT）が全ての英語の時間に担任や英語教員とのティームティーチングを行い、英語での実践的コミュニケーション能力を育てます。

(3) 系統的な作文指導の実施

第1学年から第9学年まで、小中9年間一貫した独自の作文指導カリキュラムを作成・実践しています。新聞の投稿欄にも多数取り上げられています。毎月1回、全学年で「作文の日」を設け、自己の考えを論理的に表現し、発信する能力を育てます。



塩原温泉案内



箒川リフレッシュ大作戦



キャニオニング体験

(4) 柔軟な教育課程

水曜日は昼休みを短縮して6時間授業を行い、週30時間の授業時数を確保しています。

日課表（水曜日課）

区 分	I 期(1234年)	II 期(56/7年)		III 期(89年)
児童生徒数	～8:10	～8:10		～8:10
朝の会	8:10～8:20	8:10～8:20		8:10～8:20
1 校 時	8:25～9:10	8:25～9:15		8:25～9:15
2 校 時	9:20～10:05	9:25～10:10	9:25～10:15	9:25～10:15
業間・準備	10:05～10:30	10:10～10:30		
3 校 時	10:30～11:15	10:30～11:15	10:25～11:15	10:25～11:15
4 校 時	11:25～12:10	11:25～12:15		11:25～12:15
給食指導	12:10～12:50	12:15～12:50		12:15～12:50
昼休み	12:50～13:15	12:50～13:15		12:50～13:15
5 校 時	13:15～14:00	13:15～14:05		13:15～14:05
5校時後の帰りの会	14:05～14:15			
6 校 時	14:15～15:00	14:15～15:05		14:15～15:05
帰りの会	15:05～15:15	15:10～15:20		15:10～15:20

5. これまでの成果と課題、今後の取組

児童生徒を対象とした年度末調査では、94%が「学校にいる多くの先生方が関わってくれていると思う」、83%が「いろいろな先生が、自分のことをしっかり分かってくれていると思う」と回答しました。また、他の調査では「自分は周囲から認められている」と回答した児童生徒が高い割合を示しました。このことから、地域に根ざした豊かな体験活動や異年齢集団との交流を軸とした本校の小中一貫教育が、児童生徒に安心感と確かな自信を育んでいると考えられます。

今後は、小中一貫教育に対する教職員の意識をより一層高め、義務教育学校としての強みを生かした柔軟な教育課程や指導の在り方について研究を深めることが求められます。